

海外医学部を卒業した医師の動向

海外医学部卒業生に関するこれまでの経緯

- 平成28年、第5回医師需給分科会にて、日本国籍の海外医学部卒医師数が増加してきている状況について指摘あり。

【平成27年度の合格者数は63名（全体の0.7%）】

- 平成31年2月、第28回医師需給分科会にて、日本国籍の東欧医学部卒医師数が増加しており、状況把握が必要であるという指摘あり。

【平成30年度の合格者数は95名（全体の1.1%）】

- 一方で、平成22年から設置している国内医学部の地域枠に係る臨時定員について、医師需給分科会での議論の結果、平成30年に、別枠方式のみ認める等の通知を発出し*、令和2年入学の医学部定員よりその方針を適用している。

- 令和4年以降の地域枠に係る臨時定員の設置について、マクロ需給推計・医師の働き方改革・医師偏在対策の進捗を踏まえて議論することとしている。

医師の需給分科会で海外医学部卒医師の増加についての議論が必要ではないか。

医学部入学定員と地域枠の年次推移

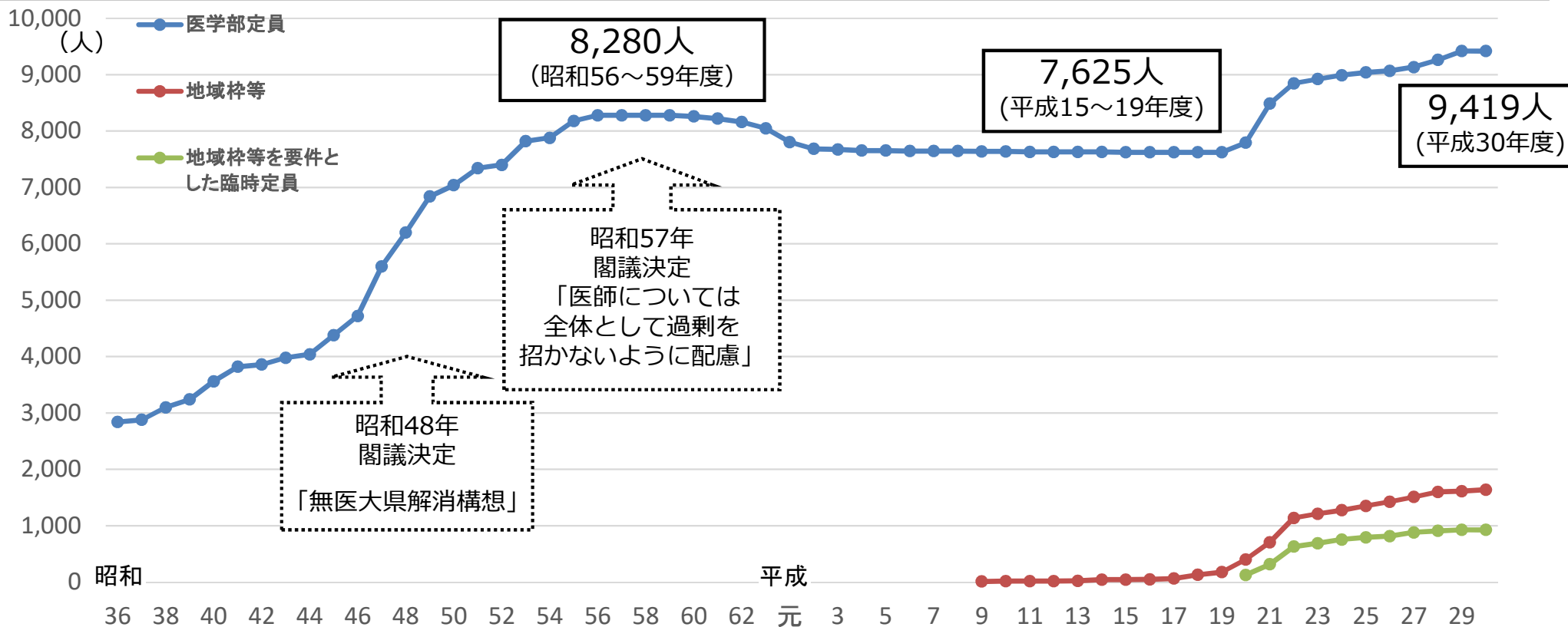
医療従事者の需給に関する検討会
第28回 医師需給分科会・改
平成31年2月18日

参考資料
3

- 平成20年度以降、**医学部の入学定員**を**過去最大規模**まで増員。
- 医学部定員に占める**地域枠等***の数・割合も、**増加**してきている。

(平成19年度183人 (2.4%) →平成30年1640人 (17.4%))

・地域枠等* : 地域医療に従事する医師を養成することを主たる目的とした学生を選抜する枠であり、地元出身者を選抜する枠や大学とその関連病院に勤務することを目的とした枠も含む。奨学金貸与の有無を問わない。



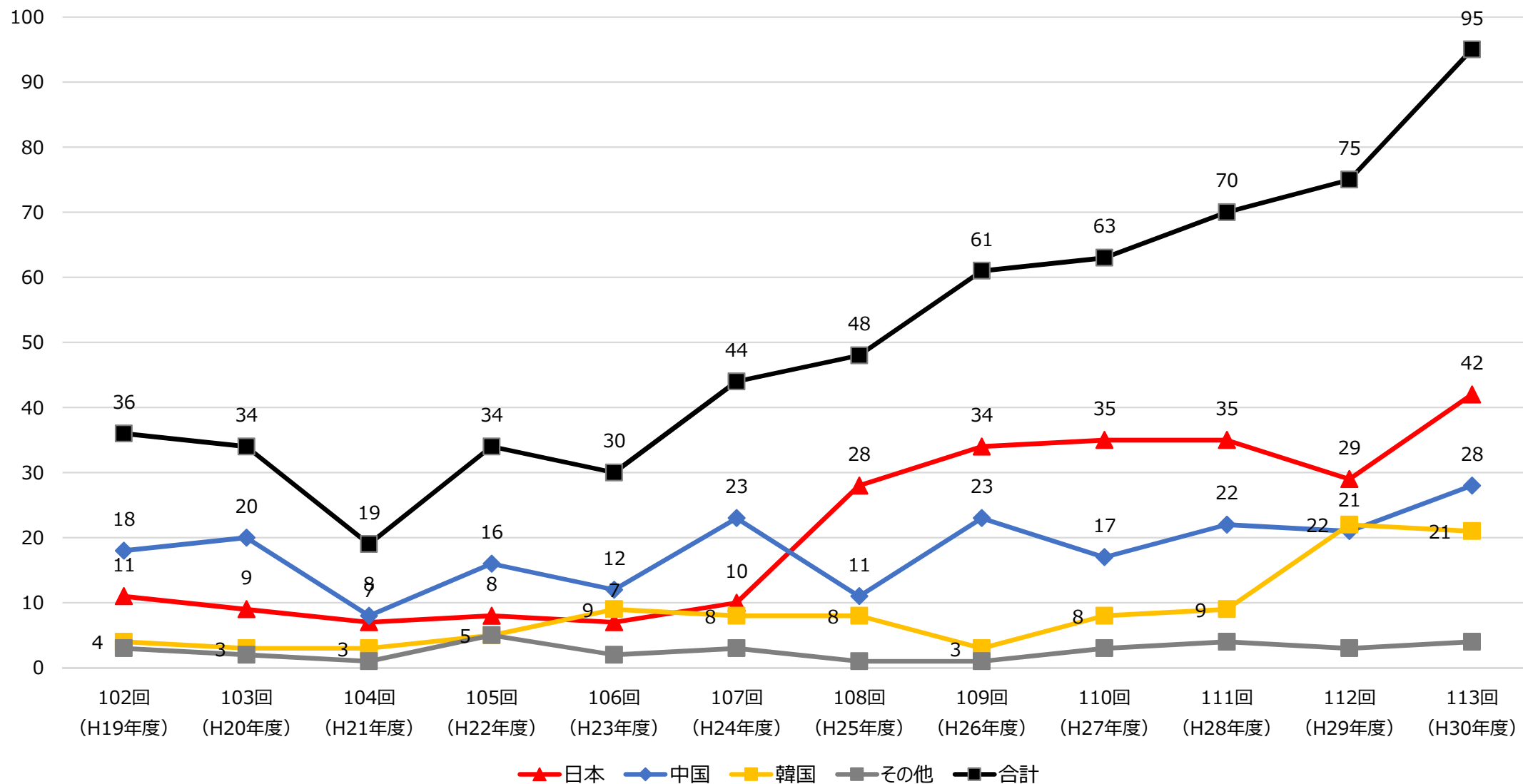
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
医学部定員	7625	7793	8486	8846	8923	8991	9041	9069	9134	9262	9420	9419
地域枠等	178	403	706	1139	1212	1276	1351	1425	1511	1600	1614	1640
地域枠等の割合	2.3%	5.2%	8.3%	12.9%	13.6%	14.2%	14.9%	15.7%	16.5%	17.3%	17.1%	17.4%
地域枠等を要件とした臨時定員	0	128	317	630	689	754	793	817	881	909	927	926
地域枠等を要件とした臨時定員の割合	0%	1.6%	3.7%	7.1%	7.7%	8.4%	8.8%	9.0%	9.6%	9.8%	9.8%	9.8%

地域枠等及び地域枠等を要件とした臨時定員の人数については、文部科学省医学教育課調べ

海外医学部卒業生の医師国家試験合格者数の推移—国籍別

海外医学部卒業の医師は徐々に増加傾向であり、直近の2018年の医師国家試験合格者数は95名であった。参考) 同年の総合格者数 9,029名

(人)

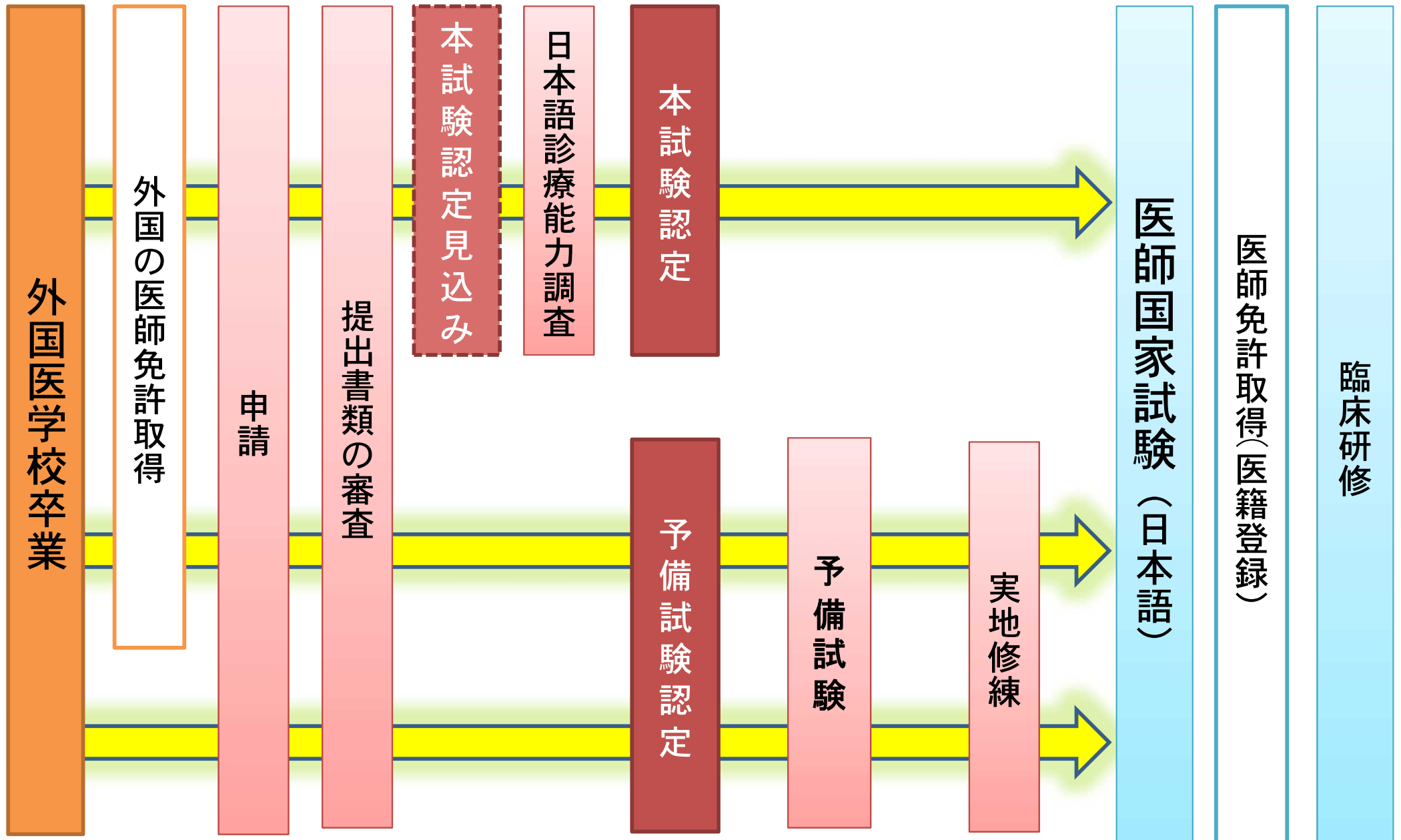


外国医学部卒業者による日本の医師免許取得の流れ 【医師国家試験受験資格認定】

医療従事者の需給に関する検討会
第28回 医師需給分科会

参考資料
8

平成31年2月18日



医師国家試験受験資格認定基準(書類審査)

医療従事者の需給に関する検討会
第28回 医師需給分科会

平成31年2月18日

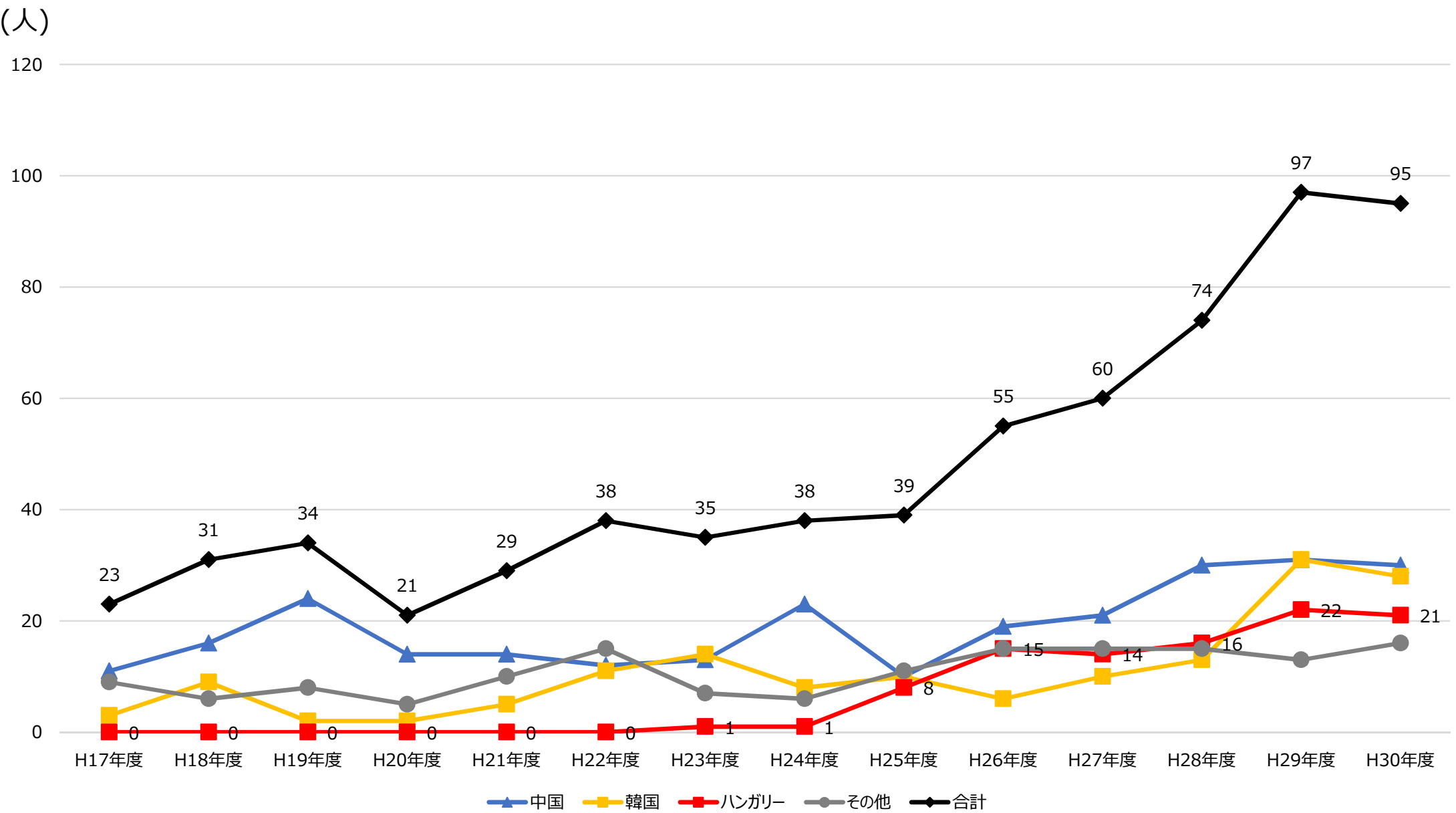
参考資料
8

		「本試験認定」	「予備試験認定」
修業年数	医学校の入学資格	高等学校卒業以上(修業年数12年以上)	
	医学校の教育年限※	6年以上 [進学課程:2年以上、専門課程:4年以上] (ただし、5年であっても5,500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には基準を満たすものとする。)	5年以上 [専門課程:4年以上]
	医学校卒業までの修業年限	18年以上	17年以上
専門科目の授業時間		4,500時間以上で、 かつ一貫した教育を受けていること	3,500時間以上で、 かつ一貫した教育を受けていること
医学校卒業からの年数		10年以内 (但し、医学教育又は医業に従事している期間は除く)	
教育環境		大学附属病院の状況、教員数等が 日本の大学とほぼ等しいと 認められること	大学附属病院の状況、教員数等が 日本の大学より劣っているもので ないこと
当該国の政府の判断		WHOのWorld Directory of Medical Schoolsに 原則報告されていること	
医学校卒業後、 当該国の医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、 日本語能力試験N1の認定を受けていること	

※:大学院の修士課程、博士課程等は算入しない。

海外医学部卒業生の本試験認定者数の推移—学校所在国別

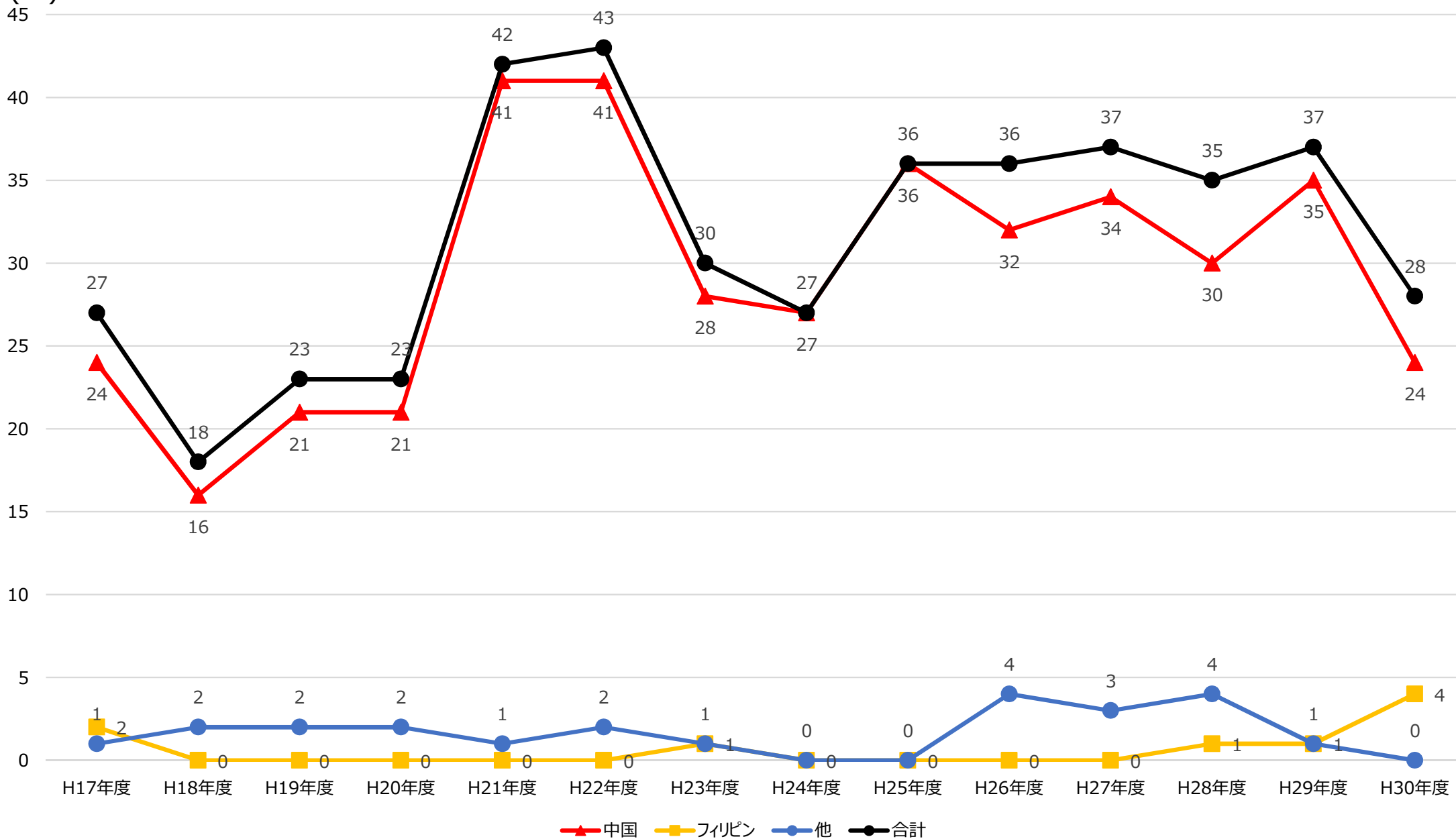
H25年以降、ハンガリーの医学部を卒業し、本試験認定を受けた学生が増加している。



海外医学部卒業生の予備試験認定者数の推移—学校所在国別

予備試験の認定を受けた者の卒業学校はほぼ中国に所在している。

(人)

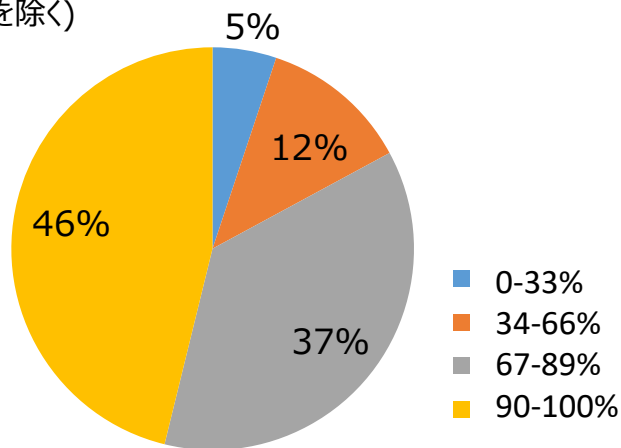


海外医学部卒・日本国籍医師の就職先（臨床研修病院）

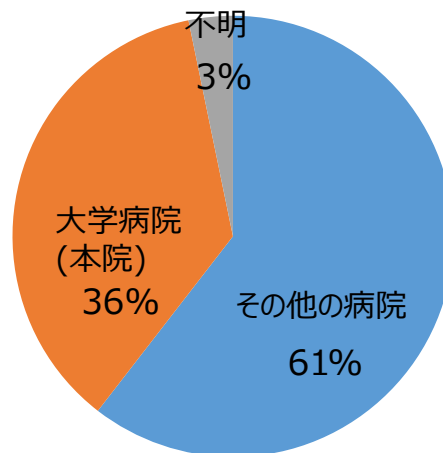
海外医学部を卒業した日本国籍医師の約半数は充足率の高い病院、大都市圏に就職する傾向がある。

就職先—研修医枠の充足率別

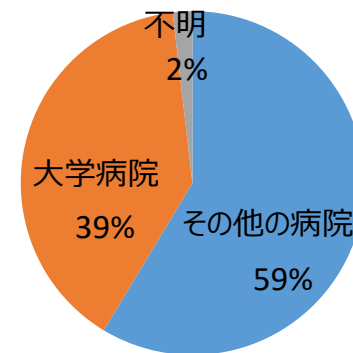
(研修先不明を除く)



就職先—大学病院 or その他



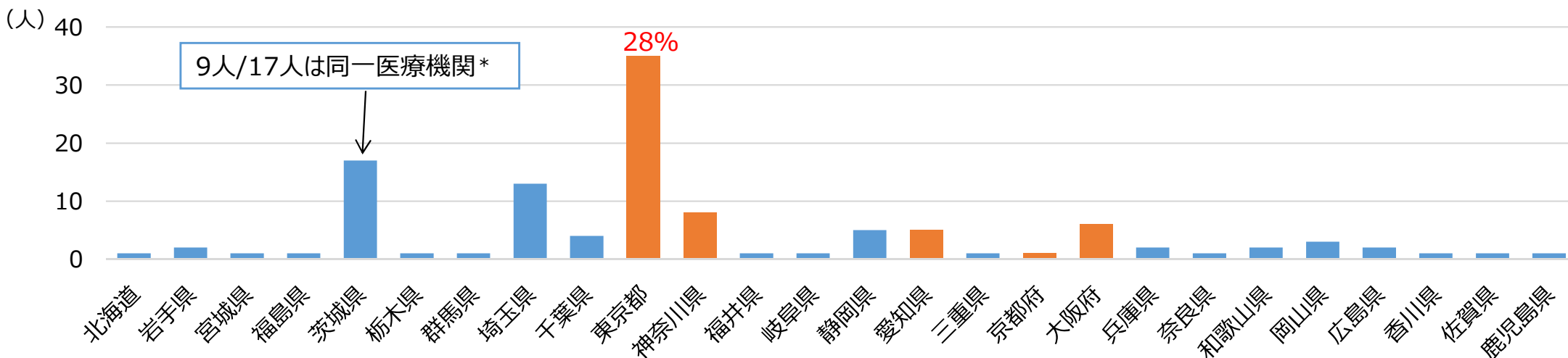
参考：就職先（全体）



出典：平成30年 臨床研修修了者アンケート調査

就職先—都道府県別

大都市圏（東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県）の割合は44%。



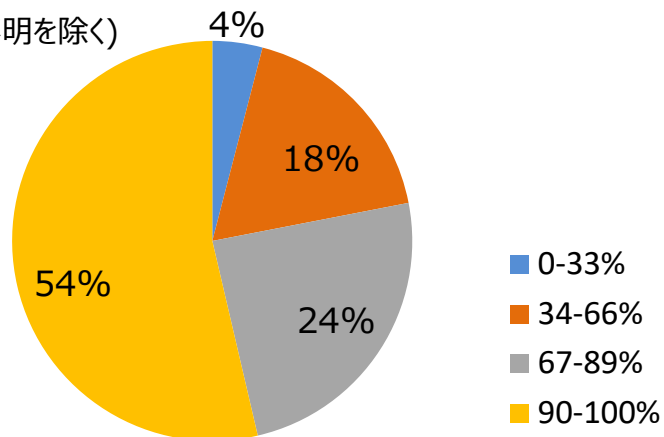
医師情報データベースを基に医政局医事課にて集計、N=124（2004-2016年の医籍登録者）
* 独自に医師国家試験対策プログラムを提供している。

海外医学部卒・外国籍医師の就職先（臨床研修病院）

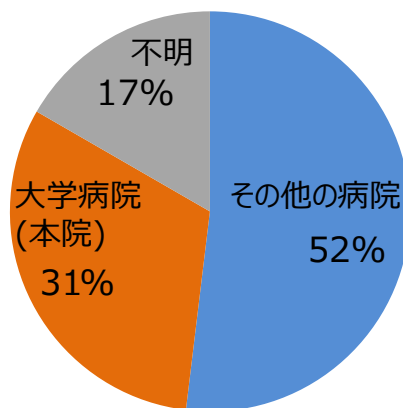
海外医学部を卒業した外国籍医師も同様に、半数以上は充足率の高い病院、大都市圏に就職する傾向がある。

就職先 – 研修医枠の定員充足率別

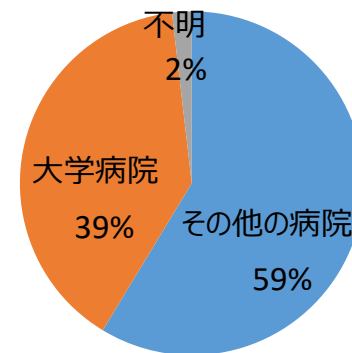
(研修先不明を除く)



就職先 – 大学病院 or その他



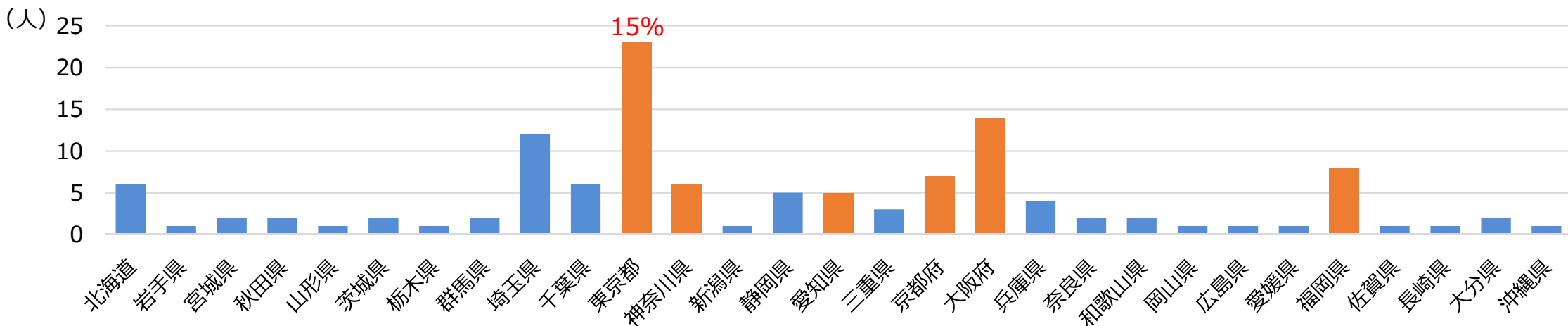
参考：就職先（全体）



出典：平成30年 臨床研修修了者アンケート調査

就職先 – 都道府県別

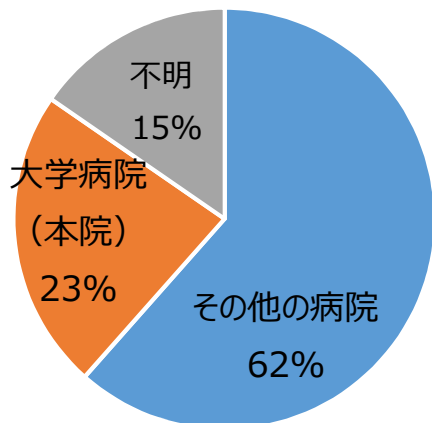
大都市圏（東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県）の割合は40%。



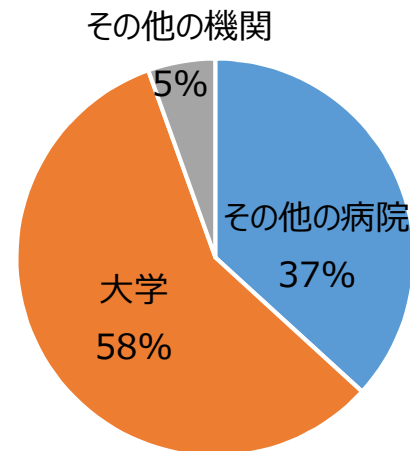
海外医学部卒医師の就職先（専門研修病院）

海外医学部卒医師は全体と比較して、大学病院以外を後期研修先として選択する傾向にある。

就職先—大学病院 or その他

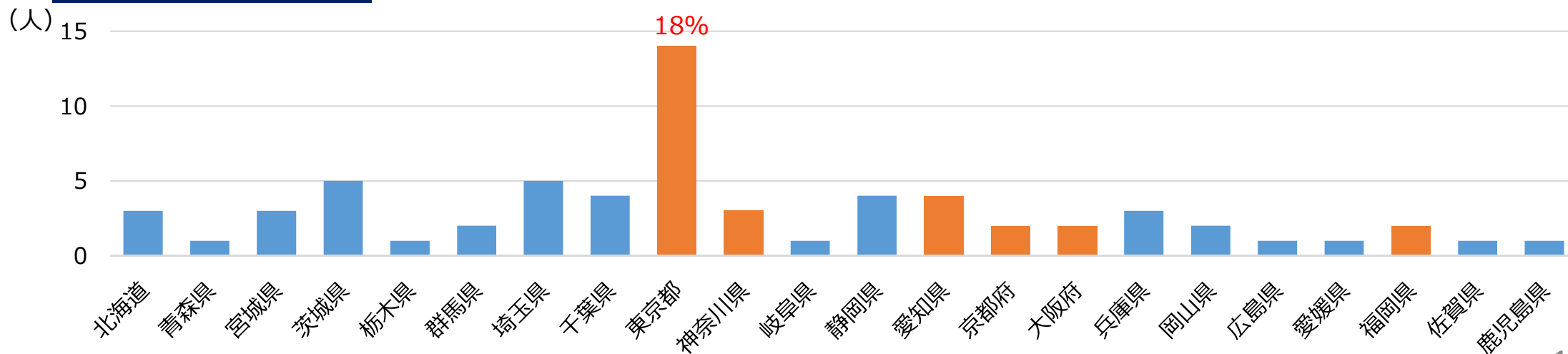


参考：希望する専門研修先（臨床研修修了者）



出典：平成30年 臨床研修修了者アンケート調査

就職先—都道府県別 大都市圏（東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県）の割合は35%。



医師情報データベースを基に医政局医事課にて集計、N=78（2011,2013年の医籍登録者）¹¹

○アメリカ*1

- 専門分野に紐付いたレジデント枠のマッチングシステム
- マッチングの受け入れ枠数は厳しく制限されており、自由競争の結果、外国人医師が地方勤務・不人気の診療科で診療をしている。
- ビザ種別の変更時、2年間本国に帰国する義務があるが、医療資源の少ない地域で働くことにより帰国義務を免除するシステムがある。

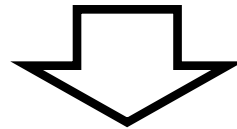
○カナダ*2

- 研修医採用時点でカナダの医学部卒医師と別枠で採用される。採用枠数はごく少数。
- 多くの州で研修医終了後にへき地勤務をすることに同意を求めるシステムを採用。
- 研修医終了後にFull licenseを取得可能だが、外国人医師で自国で臨床研修を修了している場合、Full license無しで家庭医としてのみ働くことができる。この場合、数年のへき地勤務終了後に、勤務地を指定された上でFull licenseを取得することが可能である。

海外医学部卒医師数の増加について

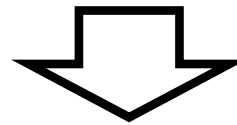
現状

- 海外医学部卒業の医師は徐々に増加傾向であり、直近の2018年の医師国家試験合格者数は95名であり、全合格者数の1%に相当する。
- 日本人で東ヨーロッパの医学部卒医師の数が増加してきている。



課題

- 国内医学部についてはマクロ需給推計の結果を踏まえて、各都道府県の地域枠に係る臨時定員の設置を厳密に行っている中、海外医学部卒医師数の増加が、今後、医師の需給、現行の偏在対策に影響を及ぼしうると考えられる。



方向性

- マクロ需給推計の医師供給数に海外医学部卒の医師数の将来的な伸びを反映させてはどうか。
- 諸外国の例を参考に、海外医学部卒医師への対応についてどう考えるか。